

# 郷土の虫送り



すこ まえ ののいちし いなさく ちゅうしん でんえんちたい しちがつげじゅん  
少し前の野々市市は、稲作を中心とする田園地帯で、七月下旬、  
どよう さんばん いね がいちゅう あつ お はら むしおく おこな  
土用の三番には、稲の害虫を集めて追い払う虫送りが行われました。  
た。

むしおく のうやく みはったつ じだい なつ たいりょう はっせい いね  
虫送りは、農薬が未発達な時代に、夏にむけて大量に発生した稲  
がいちゅう おおたいまつ た たいこ らんだ くじょ  
の害虫であるウンカなどを、大松明を焚き太鼓を乱打して駆除する  
ことに由来し、かつては日中のハタオクリと夕方から晩にかけての  
むしおく にかい わ おこな  
虫送りとの二回に分けて行われていました。

ののいちし げんざい とみおくちく おしの おきょうづか むしおく  
ここ野々市市では、現在でも富奥地区と押野・御経塚で虫送りを  
おこな  
行っています。

